

直島：アートはあらゆる場所に

直島は、香川県高松市から北へ約 13km、本州側は岡山県玉野市から南へ約 3km の場所に位置しています。この島は、周囲 16km、27 島ある直島諸島の中心的な島で、人口は約 3,000 人ほど、伝統的に魚類・海藻の養殖、近代に入ってから銅の精錬を生業としていました。島の北部には、これらやその他の産業が集中している一方で、南側はここ数十年の間に芸術関連施設で充実していることで有名となりました。ベネッセアートサイト直島が運営するこれらの施設には、ベネッセハウス ミュージアム、地中美術館、李禹煥美術館などがあります。

江戸時代（1603-1867 年）に建てられた伝統的な家屋が多く残る本村地区では、古民家を改修し、それを地域の歴史に基づいた芸術作品に変えるために芸術家が招かれました。これらの取り組みは、ベネッセアートサイト直島が行うもうひとつの事業であるアートハウスプロジェクトの助成を受けて実施されています。本村地区には、このような芸術作品が 7 作品あり、現代美術家の宮島達男（1957 年生）、写真家・建築家の杉本博司（1948 年生）、アメリカ人芸術家のジェームズ・タレル（1943 年生）などが制作を手掛けました。また、直島には屋外作品も多く、草間彌生（1929 年生）による古い栈橋の先にポツンと置かれた色鮮やかな黄色のかぼちゃの彫刻をはじめとした、様々な芸術家の作品を楽しむことができます。直島の公共施設にもまた、著名な芸術家や建築家が設計したものが多くあります。フェリーターミナル「海の駅 なおしま」は、妹島和世（1956 年生）と西沢立衛（1966 年生）が設立しプリツカー賞の受賞歴もある建築事務所(ユニット) SANAA が手掛けており、直島の公衆浴場は現代美術家の大竹伸朗（1955 年生）によって制作されました。